

海外研修報告 ロンドン 2013<秋>

ロンドン郊外団地視察

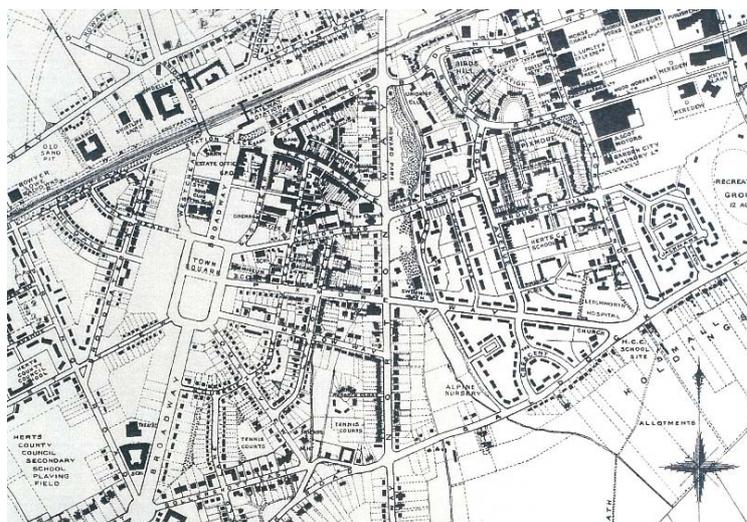
レッチワース (The First Garden City)

世界で初めての田園都市「レッチワース」を視察しました。

イギリスでは、19 世紀後半から 20 世紀初頭において、都市における理想の田園生活が追求されました。

1898 年、E・ハワードは、非営利組織による土地の一元所有・管理や、開発利益の地域社会への還元、住民による都市の運営等により実現される、理想的な社会として「田園都市」を提唱しました。

田園都市実現への運動が展開される中で、レッチワースは、1903 年に発足した第一田園都市株式会社により、約 1,800ha の土地に、人口 33,000 人の都市として計画され、B.パーカーと R.アンウィンにより設計されました。



レッチワース(1929)



草花で彩られた Town Square



レッチワース駅



低層かつ、広々とした駅前空間



街かどには、子どもの遊び場が設置



水と緑でうるおう Howard Park



Howard Park は多くの人々で賑わう



■ ロンドン高齢者住宅視察

ロンドンの住宅協会の1つである「ピーボディ・トラスト」が運営する高齢者向け住宅を視察しました。

■ ダーウィン・コート (Darwin Court)

- 1階にコミュニティセンター、2階以上に78戸の高齢者向け住宅を設けた高齢者向け総合施設。1階には、地域開放された食堂や体操等を行える多目的ルーム、プール、ITルーム等が設けられ、地域コミュニティのためのサービスを提供
- 住戸部分は、入居者のニーズ変化に対応し、住み続けを可能とした”ライフスタイル・ホーム”として設計



■ シプトン・ハウス (Shipton House)

- 認知症のための13戸のケア・ホーム。コミュニティセンターが併設され、周辺地域の高齢者等が利用するデイケアや健康管理、コミュニティに係るサービスを一体的に提供



ロンドン市内再開発視察

ロンドン市内のテムズ川沿いでは再開発等の開発が各地で行われています。

住民運動から始まり、コミュニティ組織が主導し、再生したコイン・ストリート地区、新旧のランドマークや、ロンドンオリンピック跡地の開発が進むオリンピック・パーク等を視察しました。



ロンドン・アイ



ミレニアム記念事業の1つとして建設され、新たなランドマークとなった ロンドン・アイ(London Eye)



ロンドン・アイから眺めるテムズ川沿いのビッグベン (Big Ben)

コイン・ストリート



倉庫建築を修復し、住宅、スタジオ、工房、店舗等の複合施設として複合開発されたオクスタワー



ベルニエ・スパインガーデンスに面するブロードウォール・ハウジング(Broadwall Housing)

■ テート・モダン



火力発電所を改修し、新名所となった近現代美術館
テート・モダン(Tate Modern)



屋外展示場となるテート・モダン前の広場



ミレニアム記念事業の1つとして建設された
Millennium Bridge(ミレニアム・ブリッジ)

■ タワーブリッジ



古くからロンドンのランドマークとして、観光客で賑わうタ
ワーブリッジ(Tower Bridge)



テムズ川沿いの遊歩道と一体的に整備され
たシティ・ホール(GLA City Hall)

■ クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク



地域の人々も活用できる自転車競技施設として改装中のヴェロ
パーク(London Velopark)



展望台として活用されるアルセロール・
ミッタル・オービット(ArcelorMittal Orbit)